

3月の生活表

2024年3月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：かみさまありがとう

保育日数（21/14/12日）

月目標：<3歳児>

*いつもイエスさまが共にいてくださることを信じて、新しい生活に希望を持つ

*一人ひとりのらしさを出しあいながら、互いに受け止めあって遊ぶ

*球根の芽や花の匂い、あたたかな日差しなど、春の訪れを感じ喜ぶ

<4・5歳児>

*神さまが創造されたこの世界は希望が満ちていることを感じる

*新しい生活への期待を持ちながら、好きな遊びを心ゆくまで存分に楽しむ

*少しずつ変化する自然の中で春の訪れを感じる

「お水取り」の時期はやはり雪が舞いますね。昔の先人からの季節の移ろいを生活の中から学び取った知恵です。小学校では学級閉鎖も続いているようですね。お陰様で当園では発熱・咳はあっても閉鎖とまではいきません。それぞれのご家庭での細やかな対応によるものと感謝いたします。今年度もあと少し。卒園式・修了式まで全員出席で過ごせますように。

さて、この一年を振り返り、この聖マリア幼稚園で今まで様々なことを取り入れ、教職員での話し合いを重ね、各々の時の保護者の方々にもご理解・ご協力を頂き、長〜い歩みを進めてきました。そして、更に一大決心して導入した園バス。昨秋12月より運行を始めました。今回の学校評価の項目にも入れさせて頂きました。長い歴史ある幼稚園でも、社会が動き、新たな示しがあり、今育っている子どもたちの環境、ご両親のお考え、地域との関わりなど、数えれば切りがない程の様々な対応を考えてきました。今後に繋いでいく為には前を向いて歩まねばと思うのです。勿論ある時には立ち止まることも必要で、しっかり内容を精査して熟考するべきことも必要です。と同時に教育環境が凄い速さで変更されていることも否めません。子どもが育つ為には何が大切なのか、子どもの存在は、親の存在は、地域での子育ては、と施策が様々に考え出されるにつれ、本当に大切なことを見失わないそうになります。私たちの教育指針としてある「幼稚園教育要領」は改定されて既に6年。あと4年で新たな改定が行われるべく既に準備が始まっています。6年前の改定での中心は幼小連携とその育ちの保障。子どもの育ちの連続性（0歳から18歳迄）の中で、幼稚園から小学校への大きな環境の違いを保幼小が共に考え、各々の場での育ちを大切にしながら、子どもの自主性（主体性）を重んじ、小学校教育との連続性のあり方を共に考えていく為のカリキュラム作成が進み始めています。まだ当園には回ってきていませんが。その基礎となることは資質・能力の連続した発展を通して3つの柱があります。①知識・技能の基礎 ②思考力の基礎 ③学びに向かう力というものです。前進の見極めを確実に把握した上でのあゆみが求められることは、私たちにも大切な勉強の場、研修の場になっていきます。お預かりしたお子さんの一年を経て先生やお友だちとの関わりにより、どんな風に良い色付けがされたでしょうか、どんなお味になったのでしょうか。みんな大きなマリアという一つのお鍋の中で、「やさしくなあれ」と神様の愛という味付けできっとそれぞれの成長という姿を垣間見ることができるようになったことでしょうか。そこにはご家族の大切な愛という甘い、時々辛くて苦い？エキスが入っていますよね。次年度も私たちの愛をお届けできますように。そして全ての子どもたち、ご家族の上に神様の愛が今後も降り注ぎますように。ご卒園・ご進級おめでとうございます。

《チャプレンコーナー》

3月月間主題：かみさま、ありがとう

月聖句：光の子として歩みなさい。（エフェソの信徒への手紙5：8）

毎年3月は、この聖句を選びます。これは、新しい学年に進もうとする子どもたちへの、言葉のプレゼントです。「光」という言葉には、「明るさ、希望、まっすぐさ」を感じます。困難なことの多いこの世の中ですが、そのような中でも、前向きに歩んでほしいと思います。

キリスト教の暦では、今年の復活日：イースターは3月31日になります。ちょうど学年の変わり目に当たり、春休みの真ただ中ですので、子どもたちと一緒に祝うことができない事を、少し寂しく思います。「復活」は、キリスト教信仰の中心です。イエス様は、十字架の死から三日目に復活され、永遠の命の希望を示された。この喜びから、キリスト教は生まれました。「十字架」に象徴される「苦難、絶望」に負けることなく、「復活」に象徴される「命の喜び、希望」こそが私たちの中心なのだ、ということ、キリスト教信仰は示しています。

「悲観主義は気分の問題、楽観主義は哲学の問題」という言葉を聞いたことがあります。実感として思うのですが、人間は、放っておくとだんだん落ち込んでいきます。それは、時間と共に肉体は老化しますし、体がしんどくなれば心も落ち込むからです。だから、前向きに生きるには、意識的に行動しなければなりません。体の健康維持も大切ですが、多分それ以上に、心において、希望を持って、物事に良いところを見つけ、人との誠実な交わりを大切に、そして、感謝の心とお祈りを忘れないようにしたいと思います。

難しい世の中だと思います。けれども、幼稚園に集う子どもたちの顔を見ると、そんな世界に負けない明るさを感じます。神様の御守りと御導き、豊かな祝福をお祈りします。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆進級・入学を迎えるに当たり、基本的な生活習慣の見直しをしましょう。基本的な生活習慣は、学習をする上でとても大切な日々の営み（生活）になります。

- ・家族でこの一年を振り返り、様々な方への感謝と神様への感謝の祈りを捧げてみましょう。
- ・春休み中に生活時間がルーズにならないように、できるだけ規則正しく行い、次のステップへの準備をしましょう。
- ・家庭でした方が良く、集団で育てるべきこと、その様々を再度見直してみましょう。そして、お子さんの成長の為にご家庭と園との連携を確かなものに。

☆季節を問わず流行する様々な病気への罹患を防ぐために、起床時間・就寝時間・食事・運動・手洗い、うがい・・・を施行し、また整えましょう。

☆物を大切にしましょう。

- ・進級・入学に際し、再度自分の持ち物を確認し、整理整頓をしてみましょう。
- ・緑組は、ランドセルに詰める練習もしてみましょう＝自分の責任であることの自覚

☆春の訪れを感じながら、自然の変化を全身で受け止めてみましょう。

- ・戸外で遊ぶことにより、五感を駆使してみましょう。（目・鼻・手・耳・口）
そして、心で感じたことも、言葉を使って自分の思いを表現してみましょう。

☆交通安全を心がけましょう。

- ・春休み中も交通事故・怪我等に万全の注意を払いましょう。
- ・子どもさんとは手を繋いで歩きましょう。また、親子で自転車での外出をされる時は、必ず子どもを先に行かせましょう。（後ろに目は無く子どもを守れません。）

<クラス担任より>

[花組]

「ちいさなあかちゃんだったのに～こんなにおおきくなりました～」

かみさま ほんとにありがとう～ かみさま ほんとにありがとう～♪

こんな聖歌があります。とても好きな聖歌のひとつです。3学期、年度末に4月からの子どもたちの姿、途中入園でお迎えした頃から思い巡らせて、今、目の前にいる、一人りひとりの子どもたちの成長した姿を思うと、ついこの間の子どもたちの姿はどんなに

幼くて可愛らしくて・・・それより少し前には...あかちゃんだったのに・・・こんなことも、あんなことも出来るようになり、一人の子どもたちがそれぞれに大きくなったことを一番に認め、神様に感謝したいと思います。けれど、つつい、こんなことが出来る様になったから、あんなことも出来るんだから、次は！と期待を抱き子どもたちに更なる成長を願います。成長・発達、一人ひとりその過程も到達のスピードも十人十色です。それは重々承知の上で、でも、今この頃には（今の年齢）こんなことが出来ていて欲しい。幼稚園の先には小学校がありますから...でも、まだまだ先だしいいよね？？いやいや、就学までの道のりは思うよりもあっという間なので、この大切に尊い幼児期をいかに有意義に過ごさせてあげられるのか、子どもたちを取り囲む私たち大人は大きな責任を感じずにはいられません。成長・発達が緩やかなのかな、同じ年齢の子どもたちに比べて少し遅れているんじゃないかな...という不安に心を揺さぶられたことのある親御さんは沢山おられると思います。それは簡単に答えのでもものではありません。もちろん、個々に子どもたちがもつ特性もあります。赤ちゃんから今までの育ちの中でどんなことが気になりましたか？どれだけ子どもたちの成長に喜びを感じ、不安を感じられましたか？園生活で出来たことや取り組んでいることが、家庭で活かせることは出来ていますか？幼稚園は幼稚園。家は家。もちろん、子どもたちにずっと頑張っていて欲しい、やれば出来るんだから！ということばかりを求めているのではなく、園で出来ていることが、園だけでの成果として終わってしまうのは大変もったいないな、家庭と園を切り離すことなく、子どもたちの今の姿を共有し、見守り援助してゆきたい、という思いです。園生活の毎日、教育（保育）の日々は私たち保育者にとって試行錯誤と反省の連続です。そんな中で、子どもたちの成長した姿や笑顔は希望そのもの...まだまだ大きくなれる、まだまだ楽しくなる、まだまだ分かち合える。と希望に満ちています。こうして前に向かって、希望を持ち毎日を歩んでいけることは本当に素晴らしく、幸せなことだと神様に感謝します。新年早々の能登半島地震、世界に目を向けると戦争の現実...その中でも幼子が沢山いて、どんな思いでお祈りを捧げ、どんな思いで明日を待っているのか。当たり前を迎えた朝、けれど園では毎日新しい朝に感謝のお祈りをして、明日にまたお会いしましょうと帰りのお祈りを捧げる。神様にお祈りすることで、当たり前ではない、神様に「ありがとう」することに向き合うことが出来ています。未来とは、子どもたちが歩んでゆくその先がきっと明るい光に満ちている。そう願い、そう信じることの出来ることの幸せを今、年度末に噛み締めています。

最後になりましたが、保護者の皆様には常日頃ご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。至らぬ点多々ありました。数多くの幼稚園の中から、マリアを選んでいただき、大切なお子様をお預けくださいますと本当にありがとうございます。

皆様の上に神様の豊かな御恵みがありますことを心よりお祈りいたしております。

少～し早いですが...可愛い可愛い13名の花組さん！ご進級おめでとございます！

そして...「かみさま ほんとにありがとう～♪」

【赤組】

「先生～ちょっと来て！」と園庭で手を引かれて向かった先は、春の訪れを知らせてくれていたお花の蕾でした。「ちょっと色が見えてるよ」「いつ咲くのかな？」「緑組さんの〇〇ちゃんのだね」と赤組さんで集まってお話していた2月のはじめ。今ではスイセンのお花が咲いたことが合図のように他のお花も顔を見せてくれています。段々春模様になっていくこの時期、赤組さんもいよいよ緑組へと花を咲かせる時期となりました。心身共にその準備を進めてきた3学期、進級に向けて子どもたちの表情にも希望の光が見えてきました。

そんな春を迎える前に幼稚園では1年の締めくくり、赤組がおしまいの3月でもありません。1年を思い起こしてみますと、本当に早いものです。ピカピカの赤組バッチをつけて進級したことに心弾ませながら1階の赤組保育室へやってきた子ども達。新しい環境に期待と緊張とちょっぴりの不安の入り混じったお顔でいっぱいでした。最初は広いホールをジューっと見ていたり、楽しそうな遊びを見つけたけれど「入れて！」と言う勇気が出ずにしばらく側で見ていたりする子もいましたが、そんな時「遊ぶ？」と気がついて声をかけてくれた緑組さんやお友だちがいてくれたから一歩勇気を出して「入れて！」と一緒に遊ぶようになれました。そして、大きなトラブルが起こることがなく、いつでも誰とでも遊んでみんなが仲良しのクラスでした。それぞれの個性を出してもぶつからないクラスで、ちょっぴりおふざけも好きで笑いの絶えないクラスでもありました。1年の中で、海外からの短期入園で出会ったお友達、そして2学期以降に赤組と一緒に過ごすお友だちも増え、出会いと別れを経験した子どもたち。お友だちが増えることがとても嬉しく、いつでも優しくエスコートしてくれてすぐにお友だちになれてしまうのが赤組さんたちの良いところの1つです。こうして周りに気遣う心が養われたのも、赤組という同年齢のお友達だけではなく、異年齢で1つ大きい緑組お姉さんたちと一緒に過ごす合同保育が始まったことも影響していると思います。緑組の行いに圧倒されつつ「すごい！」と感心したり「かっこいい！」と一緒に頑張ってみたりして緑組の存在が大きくなり、また、自分たちがしてもらったことを今度はやってあげたいという気持ちに変わっていたのでしょう。元々、周りで起こっていることをよく観察し沢山のことを感じて、考えて賢い赤組さん。だからこそ、言われてするのでなく自分たちで気がついて行動して欲しいと願いを込めて3学期は特に過ごしていました。「どんな緑組さんになりたい？」その質問に「優しい親切な緑組さん」と答えが多かったのですが具体的に聞いてみると「片付け方を教えてあげる」「緑組の〇〇ちゃんにしてもらったから縄跳び教えてあげたい」など、ご自分がしてもらった経験がちゃんと心に残り、みんなよ

り1つ小さい、次の赤組さんへ目を向けていることもわかりました。進級に向けてご準備ができていたと安心でした。

今ここにいる赤組さんを目の前にすると1年で心も体も「おおきくなったなあ」と本当にしみじみ思います。幼稚園時代を通して年中は成長が見えにくい学年と言われていますが確実に成長している子どもたちです。その成長があってこそ緑組になる準備が出来るというものです。♪4月に4月になったなら みんな嬉しい 緑組！と、緑組になることを楽しみに、何事にも前向きに頑張っている子どもたち。時には「大丈夫かな？」と不安の中にお友達もいるかもしれません。その時には「大丈夫だよ！」と背中を押してあげたいと思います。神様のお見守りの下、お家の皆様のお見守りの下、成長してきた赤組さん！これからも周りの人々に「ありがとう」と感謝の心を忘れずに育っていてくれることを願い、お祈りしています。

最後になりましたが、1年間、行き届かず、至らぬ点多々あったかと思いますが、保護者の方々には温かく見守りご協力下さった事、心よりお礼申し上げます。元気いっぱい可愛い11人の赤組さんと過ごせた1年間、幸せでした。本当にありがとうございました。少し早いですが、ご進級おめでとうございます。

【緑組】

卒園式まで残り10日となりました。「春の集い」を明日に控え、まだまだ「卒園」モードに切り替えられず...気が付けば、1週間ほどなのだと思うと、何かやり残したことはないかな...? 子どもたちは安心して新しい一步を踏み出せるかな...?と私も期待と不安をもって子どもたちを見ています。3学期に入り、昼食準備を子どもたちに任せる機会が増えました。それは、子どもたちが自分たちで「相談して決める」ことがスムーズになってきたからです。「わたしが」と主張することが多かった子たちが、各々の役割を「誰かに任せて」、共通の目標・目的を達成できるようになったことは嬉しい姿です（「目的・目標を達成する」とは多少大げさな印象ですが...）。明日に控えた最後の行事「春の集い」でも、やはり「役割分担」の場面がありました。これまで何度も何度も経験してきた「ご自分のお役を決める」ことです。劇ごっこの配役もリズムバンドの楽器の担当も...話し合ったり、ジャンケンしたり、コンテストしたり、推薦されたり...「決める」と言っても必ずしも自分の「思い通りにならない」経験を何度もしてきたことでしょう。あるときは「譲り」あるときは「我慢し」あるときは「涙して」その結果を受け止めるのに、納得いかずに「嫌だなあ...」と感じたこともあったでしょう。一方で、いつも思い通りにはならない経験があるからこそ「譲る」ことも「我慢する」こともできたのも事実です。「前、やったから」「前、譲って貰ったから」と理由も理屈もわかったうえで、役割を分担できたことは、本当に立派なことだったと思います。クリスマス・ページェントの配役も緑組だけで30分かけて、自

分の想いを吐露し分かち合ったうえで、各々の気持ちを知ったうえで決定したのです。そんな緑組が「春の集い」のリズムバンドでやってみたい！と個々に出した希望…。なんと！その希望が重なることなく、きれいにお役に当てはまっているではありませんか！（赤組さんの協力があるのですが、赤組さんありがとう）。「初めてだね」と笑顔の子どもたち。願い通りになることが難しい「集団生活」のなかで、卒園前にこうした経験ができたことはありがたいことです。そして、子どもたちが決して「多数決」に頼らず、友達を思って決めていたことがあります。昼食を「テーブルで食べるか？カラブロックで食べるか？」で相談していたときです。「テーブルで食べたい人・カラブロックで食べたい人・どっちでもいい人」とそれぞれ希望を聞いています。「なんで？」とも理由も確認している模様…。「先生はどっち？」「先生はどっちでもいいよ、みんな決めてくれたら」と子どもに預けました。相談することしばし…「わたしたちはテーブルで何回も食べたし、カラブロックでいいんじゃない？」と…「そうやなあ。じゃ、カラブロックにしよ」「でも、先生の分、足りひんよ」「じゃあ、あれ（小さな机）運んで来たらいいやん。誰か手伝って！」「先生～、カラブロックで食べることになりました。配膳台は出してください」と報告を受け、準備しました。この時カラブロックを希望したのは一人。でも、その子の意思を尊重する判断をした緑組。この相談の姿にも感心したのです。

♪もしも 誰かが君のそばで 泣きだしそうになったときは 黙って腕をとりながら一緒に歩いてくれるよね♪ 「believe」の歌詞です。この子たちは、幼稚園・保育園でどれだけこんな経験をしてきたことでしょうか…。傍らにいる大切な人を慮ること、その大事さを私たちは日々の保育の中で関りの中で、大事にしてきました。これを「愛」というのであれば、まさに「愛情をもって」人との関りを伝えてきました。傷つけ…傷つけられ…どちらか一方が正しく、間違いであることでは割り切れないことがたくさんあります。そのとき、自分で何をもって「答え」を導くかは、自分の中にある「相手を思う気持ち」だと思えます。感情に委ねるでもなく、客観的にものごとを見る視点を養うこと…。「わたし」だけでない、周囲への「思いやり」を忘れず、新しい社会へと羽ばたいて行って欲しいと願います。そしてその種は、もう一人一人に撒かれています。その種から芽が出て、膨らんで、花を咲かせるのは「あなた」自身です。優しい人でいてください。誰かを愛し、愛される人でいてください。

自分の「大好き」をたくさん見つけてください。それはきっと「あなた」を輝かせてくれます。いつか、また「輝く」みんなに会えることを楽しみにしています。

「先生、私たちが幼稚園の先生になって帰ってきたら、もうおばあちゃんやなあ」って。はい、おそらくそうでしょう。「帰ってきてくれること」待っています。

ご卒園おめでとうございます。これからも、神様のお恵みが豊にありますように、お祈りしています。